

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2003年放送分](#) > 4月12日放送 不況に勝つ！新製品こそ良薬～富山・水道管つぎ手メーカーの挑戦～

## 4月12日放送 不況に勝つ！新製品こそ良薬～富山・水道管つぎ手メーカーの挑戦～

4月12日(TX・TVO・TSC)

13日(TVA・TVH・TVQ・RCC・TVQ・OTV)

14日(BSJ)

富山県のシーケー金属(株)(資本金17,669万円、従業員213名)は、赤水防止のコアコート継手で長年業界の厚い信頼を得てきた。しかし、バブル崩壊に直面し5年前に就任した現社長は、銀行勤務経験や中小企業診断士資格の取得を活かし、合理的な経営を行い、財務・経営体質の改善を図った。老舗企業でありながら、その信頼を支え競争力を維持するために、常に経営体質の改善を図り、技術の向上と競争力のある分野への経営資源の集中を進める同社の積極的経営を探る。

### 不況に勝つ！新製品こそ良薬 ～富山・水道管つぎ手メーカーの挑戦～

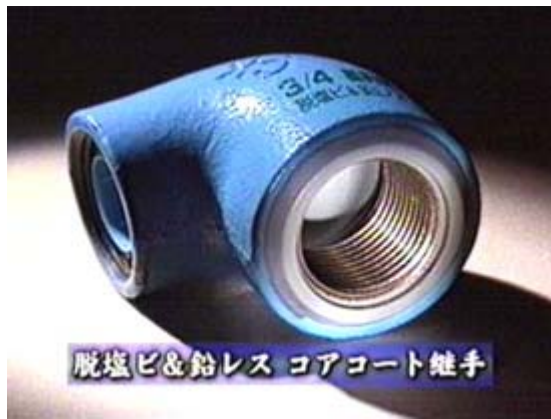
[視聴覚教材No. TV15-2](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



今日の訪問先は富山県のシーケー金属。水道管をつなぐ継手を製造している会社だ。大正時代からの老舗企業でありながら、次々と新商品を出して、注目を浴びているという。こちらが8代目社長の釣谷社長。

水道管腐食による赤水防止に優れた継手を製造していたシーケー金属は、今、塩化ビニールや鉛を使わない人体や環境に配慮した製品を作っている。



また、その他にも作業効率あげるための製品も次々と開発。「何故、新しいものを次々開発するのですか？」と志垣さんが聞くと、「10数年、こんなものを作りたい、自分ならこうするのにという思いがあった。」と釣谷社長は答えた。

多くの商品が他社との差別化を図る



新しく開発した“つば”だし成型加工機フレアマシン。フレアマシンで製造した製品ではなく、このフレアマシンを販売するという。



水道管をこのフレアマシンで加工をする。

従来、溶接加工されていた配管の“つ



ば”部分が、このフレアマシンを使えば・・・



溶接加工をせずに、“つば”を成型できる。



シーケー金属と深いつながりがあり、フレアマシンの製造も行った渡製作所の渡社長。釣谷社長について、「常に前向きに挑戦しながら会社の経営もしっかり行っている。」と語った。

得意分野に特化し新しいことに挑戦する



釣谷社長を影で支える岡村部長(右)と酒井部長(左)。この二人が設計等を担当して、釣谷社長のアイデアを形にする。



シーケー金属の製造は継手製造の全12工程を自社内で行っている。そのため、主



要部分は徹底的な機械化を図り、良質の製品を早く安く製造することが可能となった。

ポイントを決めて徹底的な機械化がコストダウンのカギ



自社内一貫生産を行っていることについて、釣谷社長は「自社内で一貫生産するからこそ新商品を製造する時、迅速な対応ができる。社内に全工程を持っていることが大きな強み」と語った。

全てを管理できる一貫生産は製造業の強み



[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN